

5. 市川市からのお知らせ

(1) 自主防災組織資器材購入費等補助金制度について

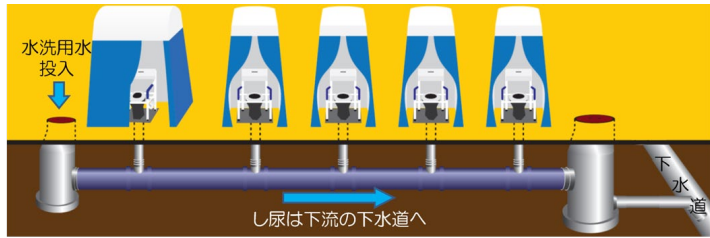
市川市では「自主防災組織」に対し、地域の自主的な防災体制の整備を支援するため、資器材の購入や修繕の費用に対する補助金を予算の範囲内で交付しています。申請の方法や対象物品についてはホームページをご参照ください。ご不明点等がございましたら、地域防災課までご連絡ください。



ホームページはこちらから

(2) マンホールトイレが整備されました

大洲小学校、新浜小学校、南新浜小学校、富美浜小学校、福栄小学校、幸小学校、塩浜学園の7校に整備しました。また、災害時用に携帯トイレの備蓄をお願いします。



【マンホールトイレ概要図】



【携帯トイレ（イメージ）】

(3) 線状降水帯の予測が開始されました

気象庁は6月1日から、豪雨災害の要因となる「線状降水帯」を発生の日前に予測する取り組みを始めました。線状降水帯が発生すると、大雨災害発生の危険度が急激に高まることがあるため、危機感を早めに持っていただき、日頃からハザードマップや避難所・避難経路の確認等をお願いします。

(4) 防災訓練や講話の受付のお知らせ

防災訓練や講話の受付を開始しております。コロナ禍の為、一部できない訓練もあります。ホームページに詳細を記載しておりますので、ご確認ください。



ホームページはこちらから

相談窓口の設置について

災害対応や協議会活動など、遠慮なくご連絡ください。

電話・FAX・メール・郵送でのお問い合わせ

危機管理室地域防災課（平日9時～17時）
〒272-0021 市川市八幡1-8-1 消防局4階
☎ 047-704-0065 FAX:047-336-8046
メール:chiiki-bosai@city.ichikawa.lg.jp

地域防災課への問い合わせフォーム

携帯電話（スマホ）や、パソコンで、ご意見やご要望を投稿することができます。

市川市 各課問い合わせ 検索



お問い合わせ:市川市危機管理室地域防災課 TEL047-704-0065

小学校区防災拠点

令和4年7月発行

協議会通信

第7号

1. 新型コロナウイルス感染症への対応について

【新規感染者数カレンダー】

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 週計 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 4/24 | 4/25 | 4/26 | 4/27 | 4/28 | 4/29 | 4/30 | 707人 |
| 93人 | 97人 | 104人 | 150人 | 126人 | 90人 | 47人 | |
| 5/1 | 5/2 | 5/3 | 5/4 | 5/5 | 5/6 | 5/7 | 469人 |
| 88人 | 49人 | 91人 | 73人 | 33人 | 21人 | 114人 | |
| 5/8 | 5/9 | 5/10 | 5/11 | 5/12 | 5/13 | 5/14 | 680人 |
| 110人 | 62人 | 119人 | 99人 | 91人 | 103人 | 96人 | |
| 5/15 | 5/16 | 5/17 | 5/18 | 5/19 | 5/20 | 5/21 | 516人 |
| 71人 | 41人 | 106人 | 87人 | 75人 | 61人 | 75人 | |
| 5/22 | 5/23 | 5/24 | 5/25 | 5/26 | 5/27 | 5/28 | 414人 |
| 52人 | 51人 | 74人 | 75人 | 69人 | 49人 | 44人 | |

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 週計 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 5/29 | 5/30 | 5/31 | 6/1 | 6/2 | 6/3 | 6/4 | 320人 |
| 47人 | 25人 | 50人 | 58人 | 53人 | 48人 | 39人 | |
| 6/5 | 6/6 | 6/7 | 6/8 | 6/9 | 6/10 | 6/11 | 316人 |
| 53人 | 31人 | 60人 | 62人 | 52人 | 32人 | 26人 | |
| 6/12 | 6/13 | 6/14 | 6/15 | 6/16 | 6/17 | 6/18 | 228人 |
| 36人 | 21人 | 32人 | 35人 | 49人 | 24人 | 31人 | |
| 6/19 | 6/20 | 6/21 | 6/22 | 6/23 | 6/24 | 6/25 | 276人 |
| 36人 | 20人 | 29人 | 59人 | 37人 | 42人 | 53人 | |
| 6/26 | 6/27 | 6/28 | 6/29 | 6/30 | 7/1 | 7/2 | 506人 |
| 57人 | 26人 | 84人 | 82人 | 83人 | 88人 | 86人 | |

上図は、本市の新規感染者数の状況です。

ゴールデンウィーク明けの第2週は、前週比の約1.4倍。その後、徐々に新規感染者は減少しましたが、6月19日の週は前週比の約1.2倍、そして、6月26日の週は、前週比の約1.8倍となり、増加しています。今後も、基本的な感染対策をお願いします。

2. ひょう被害について

令和4年6月3日に、本市の一部地域でひょうが降りました。

この降ひょうにより、市川駅周辺や南八幡などで、街路灯や商店街灯の破損が確認されるとともに、梨を含め露地野菜など、多くの被害が確認されています。

また、一般家庭では、窓ガラスやサンルーフの屋根等の破損がありました。

市民の皆様には、日ごろからの備えとして、ブルーシートやガムテープ等の備蓄をお願いします。



勤労福祉センター分館内のトイレの窓ガラス破損



真間銀座通りの街路灯破損

3. 地震の想定

新型コロナウイルス感染症の影響により小学校区防災拠点協議会の活動を2年間見送ってきました。この間、新しく委員に就任された方もいらっしゃいます。

地震対策の第一歩は、自分が住んでいる地域の特性を知ることから始まります。そこで、地震が発生した場合の被害を知るための基礎となる、本市の地盤の特性や想定する地震について説明します。

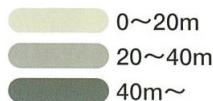
※この被害想定は平成24年度に行ったもので、現在見直しを進めています。

(1) 本市の地盤の特性

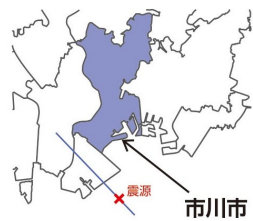
本市の地形は、大きく台地と低地に分けられます。低地のうち特に行徳から真間川、大柏川沿いの地域には沖積層が厚く堆積している地域が広がっています。

約2万年前に形成された比較的新しい地層が沖積層です。河川により堆積した腐植土、泥土が堆積してできたもので、一般的には軟弱であることが多い地層です。

沖積層等厚線図



(2) 想定する地震

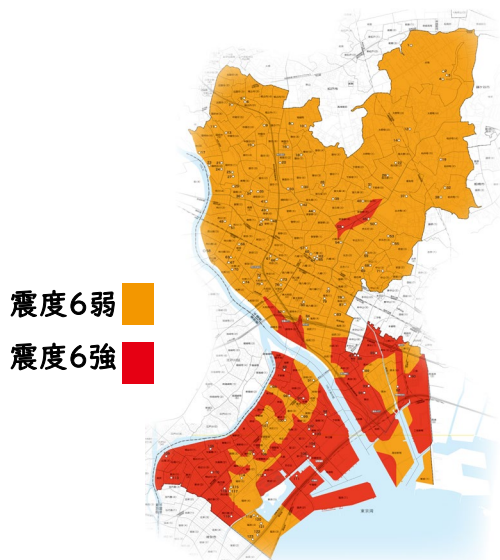


- ① 想定地震：東京湾北部地域を震源域とする地震
- ② 震源地：東京湾北部(市川市の真南)
- ③ 規模：マグニチュード7.3
- ④ 深さ：20km
- ⑤ 風速：6m(本市の年間平均風速3mの2倍)
- ⑥ 風向き：北北西(本市の年間風向で最も多い)

(3) 想定地震による震度と被害想定

本市では、震度6弱、6強の地震が発生し、特に行徳地域や北部の谷筋では、震度が高くなります。

震度分布



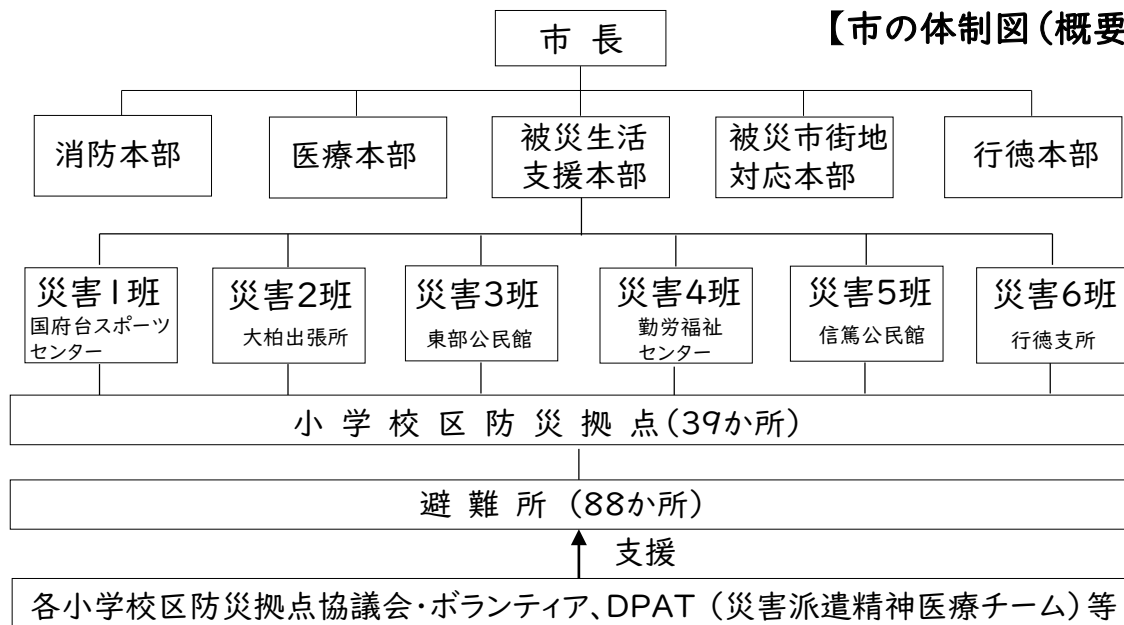
建物や人的等の被害想定

| | | |
|-----------|------|---------|
| 建物被害 | 全壊 | 3,678棟 |
| | 半壊 | 17,196棟 |
| 火災による建物焼失 | | 6,108棟 |
| 人的被害 | 死者数 | 331人 |
| | 負傷者数 | 4,072人 |
| 避難者数 | | 47,191人 |
| 水道管被害状況 | | 379件 |
| ガス管被害状況 | | 29件 |
| 電柱被害状況 | | 250件 |

4. 市川市の災害対応体制

本市の災害時の体制は、市長を本部長とし、その下に5つの対応本部があります。被災生活支援本部には、市内6つの地域の情報収集を行う災害班があります。また、その災害班の下に、小学校区防災拠点と避難所があります。

【市の体制図(概要)】



【災害班の区域図】



○小学校区防災拠点とは…
市内39の小学校区を単位としています。メンバーは、市職員・学校職員の他、協議会の皆さんです。防災拠点の活動場所は学校の会議室で、体育館は避難所となります。主な役割は、市職員：被災情報の収集や発信、物資の配給など、学校職員：施設管理者として利用可能な場所の提供、協議会の皆さん：避難所の支援や地域のニーズを職員に伝えていただくことなどで、3者が協力し合い活動を行います。

○小学校区防災拠点協議会とは…
地域の皆さんによって構成されています。平常時は、避難所運営訓練や防災に関する話し合いを行い、災害時は主に避難所運営の支援を行います。

避難所は共同生活となるため、環境の変化やプライバシーが保てないことなどにより、体調を崩す人もいます。災害への備えの中に、分散避難や在宅避難も選択肢に入れましょう。

分散避難…安全な場所にある知人・親せき宅への避難や、ホテル等の宿泊施設で避難生活を送ることです。

在宅避難…自分や家族にけががない、自宅の安全が確保できている、食糧や水などの備蓄がある場合に、自宅で避難生活を送ることです。